

開講期	2025年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	5506 神話と儀礼			開講形態（隔週 偶数＝隔週2コマ）	週間授業
種別	人数制限(抽選)			定員	120
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	火曜4限				
教室	B207教室				
代表教員	津田 博幸				
担当教員	津田 博幸				
テーマと到達目標	儀礼は特別に囲い込まれた時空でなんらかの身体表現・言語表現を行う（たとえば結婚式や葬式）。それは表現と意味が複合的パフォーマンスによって生成する時空である。そして、その儀礼の中には神話を演劇的に表現するものがある。たとえば、沖縄石垣島で行われる節（シツ）祭は、大晦日の夜に一夜の宿りを乞うた神の物語（大歳の客）を再現したものである。そのような神話と祭祀儀礼との関係を文化論として理解することを目指す。				
概要	沖縄には前近代から続いている祭がたくさん残っているが、その中に、神が祭の場に現れて神話を実演したり、神話を歌ったりすることが中心になっている祭がある。そういう祭ではそもそも祭の場が神話の世界なのだと言ってもよい。祭は単なる演劇的再現ではなく、時空そのものを聖なる世界へと変質させるのである。そして、沖縄ではこれらの祭を多くの場合巫女たちが担ってきた。巫女たちのパフォーマンスや歌を映像で観、録音で聴きながら、その聖なる時空の特質について考え、そのようなものを作り出す人間の文化への理解を深めたい。講義形式。なるべく楽しくやりたい。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	海神祭とCocco——神の乗り物としてのジュゴン。				対面授業
第2回	沖縄のジュゴン伝説と祭。				対面授業
第3回	ニライカナイ（異界）との回路を開く海神祭。				対面授業
第4回	古代日本の「常世」神話とニライカナイ。				対面授業
第5回	石垣島川平の節祭——来訪神マユンガナシ。				対面授業
第6回	神の言葉は何を語るか——マユンガナシの神口（カンフツ）。				対面授業
第7回	マユンガナシと日本の古代神話（常陸国風土記・備後国風土記）。				対面授業
第8回	時間の変わり目（大晦日の夜）と異界との回路（『君の名は。』など）。				対面授業
第9回	宮古島狩俣の祖神（ウヤガン）祭——女性が神になる祭。				対面授業
第10回	神は「押しに押し乗りに乗り」やって来る——祖神祭の神歌(1)。				対面授業
第11回	放浪する神による村の起源——祖神祭の神歌(2)。				対面授業
第12回	聖女の機織りと宮古の人頭税——祖神祭の神歌(3)。				対面授業
第13回	自死した下男 of 恨みを伝える巫女たち——祖神祭の神歌(4)。				対面授業
第14回	浮気夫に追い出された妻の絶望語り——祖神祭の神歌(5)。				対面授業
第15回	神話を現出させる祭の文化的意義について。				対面授業
成績評価の基準	全授業時数の3分の2以上の出席と課題提出を必須とする。毎回ポータルを通して課題（その日の講義内容に対する理解の確認、発展的考察・質問などを200字以上）を提出（欠席した回の課題提出は不可）。毎回の課題の評点の総計で評価する。				
履修にあたっての留意事項	・前期の「ジェンダー表象論」も沖縄文化を論じるので合わせて履修してほしい。 ・オンライン授業の併用は原則として行わないが、受講者に病気等のやむをえない事情がある場合はZoom中継の視聴および講義後のZoom録画の視聴を認める。希望者は講義開始の30分前までにポータルの「授業Q&A」で申し出ること。ただし、Zoomでは教室で視聴する映像資料の中継はできない。なるべく教室での出席をお勧めする。				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件	T学科の低学年から順に優先				

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし。		
教科書	プリントを配付。	教科書(ISBN)	
参考文献	授業中に適宜指示。	参考文献(ISBN)	